

令和元年度 決算の概要



1. 総 括



～次世代へつなぐ新たなまちづくり～

令和元年度は『NEXTおの創生』を掲げ、『人生100年時代を見据えた高齢者活躍の促進』、『子育て支援・教育環境の充実』、『安全・安心の確保』、『新たな拠点整備と都市基盤の充実』の4つの重点項目を基軸に事業を実施した。新庁舎の建設や小野希望の丘陵上競技場、ひょうご小野産業団地の整備などのビッグプロジェクトを継続しつつ、小野市の強みである子育て支援や教育環境の更なる充実、シニア世代の生きがい創出やコミュニティへの参加を推進し、「次世代へつなぐ新たなまちづくり」に取り組んだ。

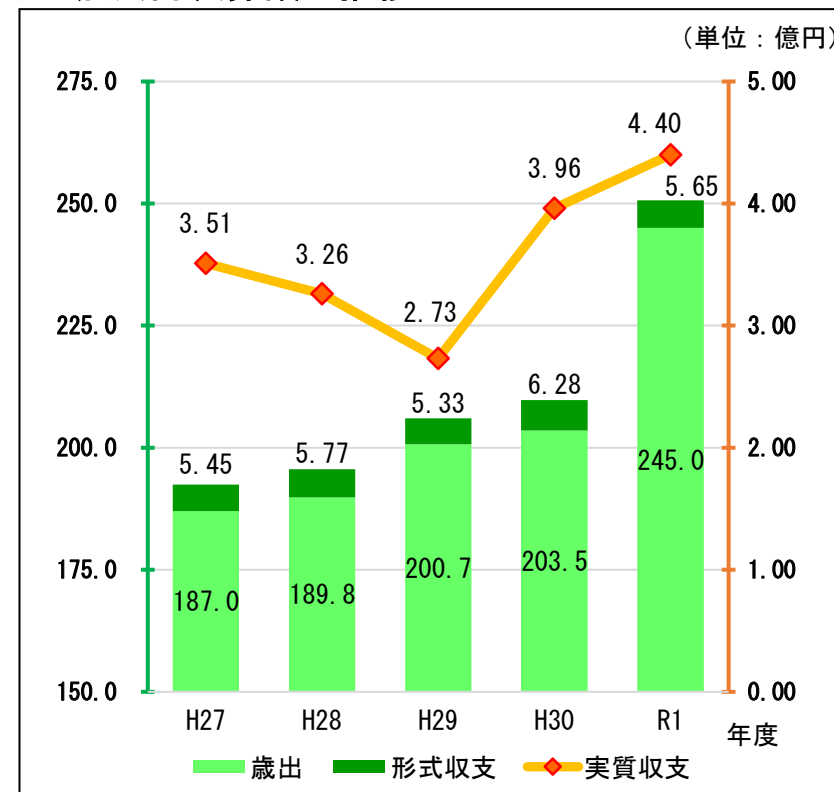
一般会計の決算額は、歳入250.7億円に対して歳出245.0億円となり、歳入歳出ともに過去最大となった。形式収支は5.6億円、繰越事業に必要な財源1.2億円を差し引いた実質収支は4.4億円の黒字となった。市債残高は、新庁舎建設事業などの大型事業の実施により前年度比26.1億円増の215.6億円となり、過去最大となった。また、基金残高は、公共施設整備基金等を取り崩したため前年度比15.9億円減の77.0億円となった。財政構造の弾力性を示す経常収支比率は91.4%で前年度比1.0ポイント増となったが、財政健全化指標は全ての基準をクリアしている。

◆会計別収支決算の状況

(単位：千円)

会 計 項 目		一 般	国 民 健 康 保 険	介 護 保 険 医	後 期 高 齢 者 療 養	合 計
歳 入		25,065,127	5,424,984	4,099,951	630,642	35,220,704
歳 出		24,500,553	5,273,888	4,097,630	614,711	34,486,782
形式収支		564,574	151,096	2,321	15,931	733,922
翌年度繰越財源		124,732				124,732
実質収支		439,842	151,096	2,321	15,931	609,190
現 在 高	基 金	7,696,897	262,290	433,050		8,392,237
	地方債	21,556,706				21,556,706
	債務負担行為に基づく翌年度以降の支出予定額	1,627,907				1,627,907

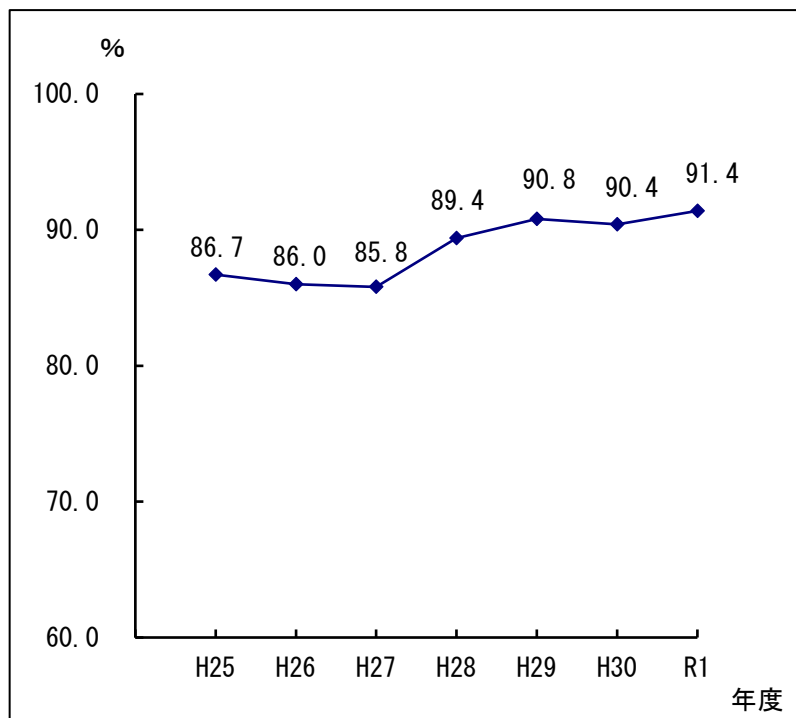
◆一般会計決算額の推移



- 一般会計の歳入歳出差引額（形式収支）は5億6,457万4千円。この額から翌年度へ繰り越すべき財源1億2,473万2千円を差し引いた**実質収支は4億3,984万2千円**で、このうち財政基金条例の規定により2億2,000万円を積み立て、その残額2億1,984万2千円を翌年度へ繰り越した。

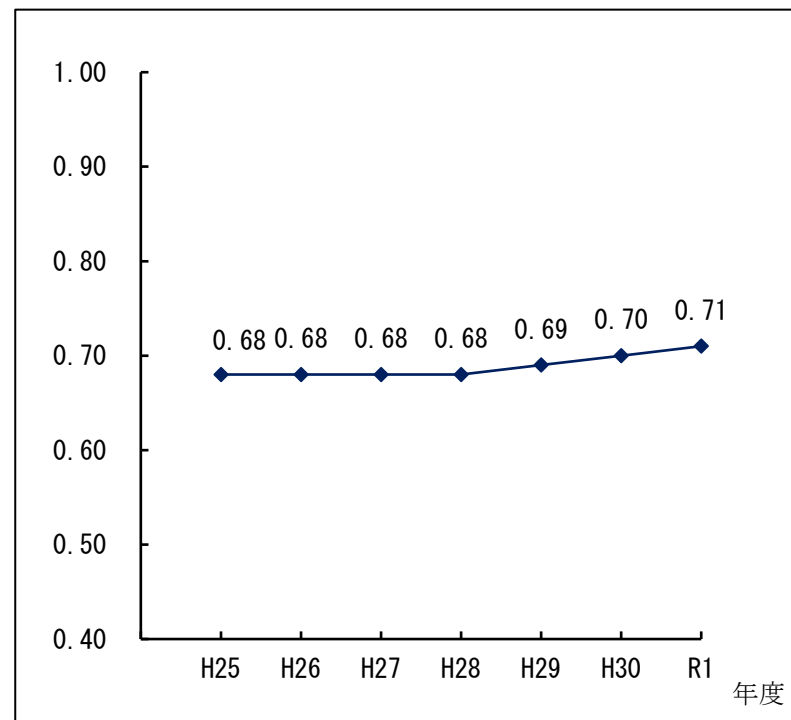
2. 経常収支比率・財政力指数の推移

◆経常収支比率の推移



- 経常収支比率とは、経常経費に充当された一般財源を経常的に収入される一般財源で除した比率。
- 財政構造の弾力性を示すもので、比率が高いほど財政の硬直化が進んでいることになる。

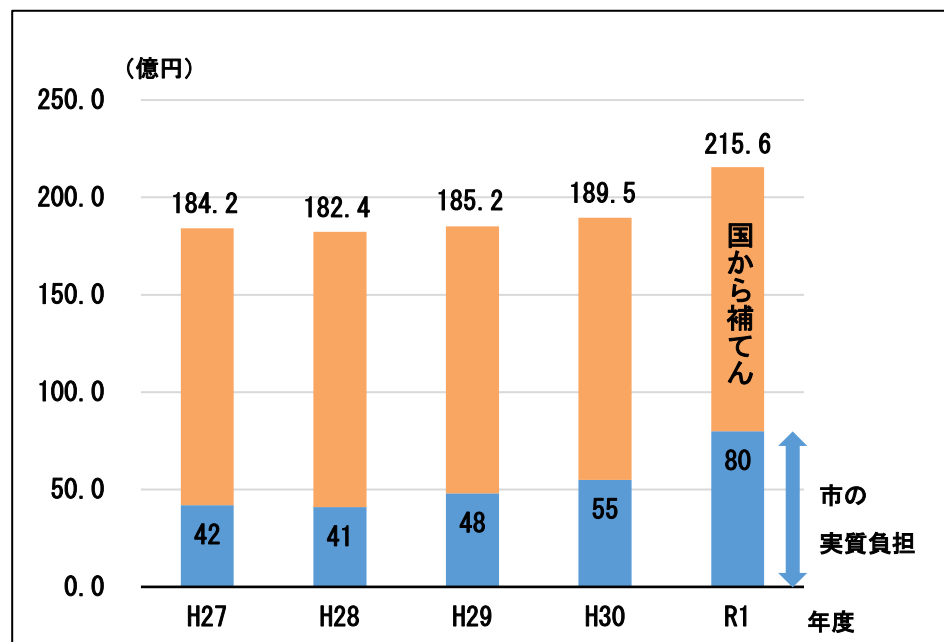
◆財政力指数の推移



- 財政力指数とは、基準財政収入額を基準財政需要額で除した指数（3ヶ年平均）。
- 市の財政基盤の強弱を示し、指数が高いほど財政基盤が強いことになる。

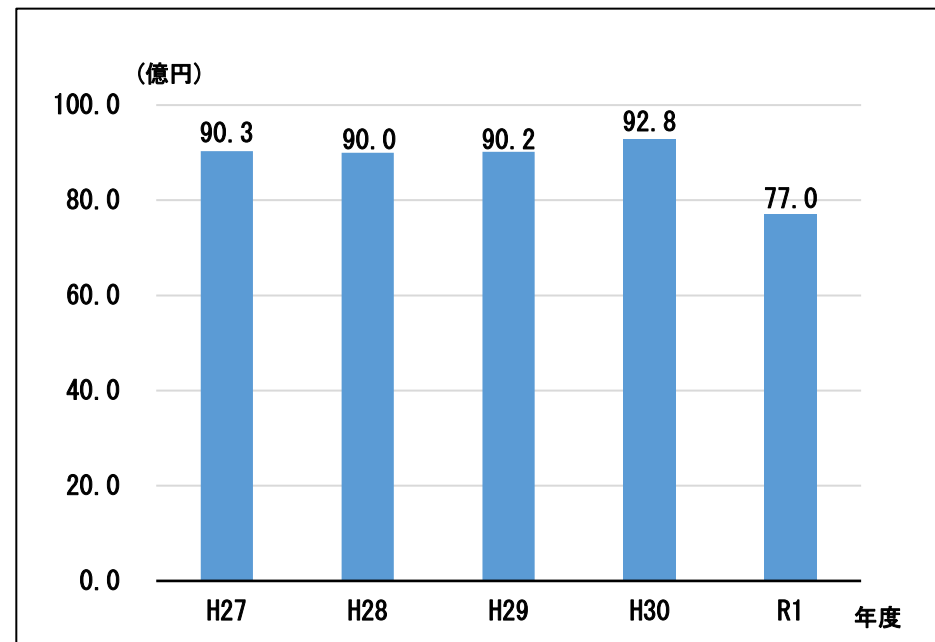
3. 市債(地方債)残高・基金残高の推移

◆市債(地方債)残高



- 借金にあたる市債残高は215億6千万円となり、過去最大となった。臨時財政対策債の全額、北播磨総合医療センター建設に要した出資債の2分の1など後年度に国から補てんされるものを除いた実質的な市の負担額は約80億円となっている。

◆基金残高



- 預金にあたる基金残高は、新庁舎建設や小野希望の丘陸上競技場整備などの大型事業実施に伴い、財政基金や公共施設整備基金を取り崩したが、引き続き70億円台を維持した。

4. 財政健全化指標

(単位: %)

	2015	2016	2017	2018	2019	判断基準	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	早期健全化基準 	財政再生基準 
実質公債費比率	5.2	4.3	3.9	4.0	4.1	25.00	35.00
将来負担比率	△28.4	△36.4	△39.1	△32.9	12.5	350.00	—
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	13.13	20.00
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	18.13	30.00

※数値が低いほうが良好な値を示しています。判断基準の数値をオーバーすると財政健全化計画などを作成し自主的な改善が義務づけられます。

- 4つの指標全てにおいて健全化団体の基準をクリアしている。
- 実質公債費比率は令和元年度単年度では4.9%となるが、3カ年の平均値では4.1%となり、前年度比0.1ポイント増にとどまっている。
- 将来負担比率は、複数の大型事業の実施により10年ぶりのプラス値になっている。

5. 企業会計の状況

(単位:千円)

区 分		元年度			30年度	収支増減	(参考)		
		収 入	支 出	差 引	差 引		一般会計繰入金 (元年度)	一般会計繰入金 (30年度)	繰入金増減
都市開発 事業会計	収益的収支	8,480	12,075	△3,595	△132	△3,463	—	—	—
	資本的収支	10,148	10,530	—	—	—	—	—	—
水 道 事業会計	収益的収支	1,377,176	1,122,360	254,816	260,526	△5,710	1,316	1,310	6
	資本的収支	222,424	1,031,552	—	—	—	—	—	—
下 水 道 事業会計	収益的収支	1,692,283	1,560,579	131,704	123,293	8,411	675,901	681,419	△5,518
	資本的収支	854,995	1,512,844	—	—	—	—	—	—
合 計	収益的収支	3,077,939	2,695,014	382,925	383,687	△762	677,217	682,729	△5,512
	資本的収支	1,087,567	2,554,926	—	—	—	—	—	—

※ 企業会計における資本的収支の不足額については、過年度分損益勘定留保資金等で補てん。

令和元年度決算 重点項目別の主な事業内容



1. 人生100年時代を見据えた高齢者活躍の促進



2. 子育て支援・教育環境の充実



3. 安全・安心の確保



4. 新たな拠点整備と都市基盤の充実

重点項目 1. 人生100年時代を見据えた高齢者活躍の促進

- 堀井城跡ふれあい公園の整備（2億4,880万円）**（継）**

土塁や外堀などの中世の城跡を生かしつつ、グラウンドゴルフ場や遊歩道、多目的広場を整備。高齢者を中心に様々な世代の市民交流と健康に役立つ公園として、令和2年4月に一部供用開始。8月に全面開園し、天然芝のグラウンドゴルフコースの利用も可能となった。



- 地域づくり協議会への助成（1,893万円）**（継）**

市内6地区の地域づくり協議会の活動を支援。協議会が独自で企画・実施する地域活性化の活動に対し、使途自由の補助金を交付。

- 地域のきずなづくりへの支援（854万円）**（継）**

自治会の諸活動を支援し、高齢者の生きがいづくりや地域コミュニティの強化につなげるため、社会奉仕や健康増進などの活動に対して年間最大20万円を助成。令和元年度は70自治会で活動を実施。

- エイジ・ルネサンスパーティの開催（434万円）**（継）**

65歳を迎える市民を対象に第2の成人式を開催し、シニア世代が「生涯現役」を目指すきっかけづくりを行う。令和元年度で20回目の開催を迎えた。

- おのアクティブポイントの継続（193万円）**（継）**

アクティブシニアの社会参加を拡大し健康寿命の延伸を図るため、市民による健康づくりや介護予防の取り組み、シニア世代のボランティア活動等に対してポイントを付与。令和元年度は1,598人に「おのアクティブパス（手帳）」を交付し、累計で約4,800人が参加している。

- 地域活動シニアサポートモデルの推進（128万円）**（継）**

シニア世代の知識・経験・技能を生かした地域貢献活動を推進するため、シニアグループの事業立上げ費用と運営に係る費用（3年目まで）を補助。
令和元年度は3団体（うち新規1団体）に交付。



重点項目 2. 子育て支援・教育環境の充実

- 高校3年生までの医療費完全無料化（2億6,181万円）**（継）**

県内初となる高校3年生までの医療費完全無料化を継続。

- 3～5歳児の幼児教育・保育の無償化

及び0～2歳児の保育料軽減（14億7,953万円）**（継）**

4・5歳児の幼児教育・保育無償化を継続し、令和元年10月からは対象を3歳児にも拡大。また、0～2歳児の保育料についても市独自の軽減を継続。保護者の負担は合計で約1.9億円減少。



- 保育所の園舎改修費用を助成（2,902万円）**（新）**

老朽化した園舎の改修費用の一部を助成し、安全な保育環境を整備。令和元年度は栗生こども園に助成。

- 小野南中学校長寿命化改良（2,409万円）**（新）**

建築後40年が経過する小野南中学校の長寿命化改良事業に着手。令和元年度は実施設計を行った。校舎の長寿命化改良は令和3年度に完了予定であり、建て替えと同等の環境整備をすすめる。

- 図書館の空調・照明改修（1億1,790万円）**（新）**

開館から23年が経過した図書館の改修を実施。空調の改良と照明のLED化をすすめ、より快適な読書空間を整備。

- 中学校体育館にスポットクーラーを設置（1,134万円）**（新）**

災害時には避難所となる中学校の体育館に、夏場の熱中症対策を兼ねてスポットクーラーを設置。市内4中学校に5台ずつ整備。



- 学校トイレの洋式化（1,869万円）**（継）**

平成28年度から5か年計画で学校トイレの洋式化を実施。すでに洋式化されている小野東小学校、小野中学校、幼稚園を除く市内11校について、使用頻度の高いトイレの便器を洋式化。4年目となる令和元年度末時点での洋式化率は60.7%を達成。

重点項目 3. 安全・安心の確保

● 河川水位センサーの設置及び防災マップの作成（784 万円）**新**

大島川（大島町）と東条川（小田町）に河川水位センサーを設置。河川水位を近隣住民と情報共有し、的確で迅速な避難発令の体制を構築。

また、1000年に一度の大雨を想定した防災マップを更新し、浸水想定区域を市民に周知。



● 防災資機材の整備（759 万円）**新**

災害時には避難所や救護活動の拠点となる「小野希望の丘陸上競技場」の防災倉庫に、マンホールトイレや発電機などの防災資機材を整備。

● 消防署にオゾンガス発生装置を配備（422 万円）**新**

救急活動における新型コロナウイルス感染対策として、ウイルスを除去できるオゾンガス発生装置を消防署に導入し、救急車や救急隊員、資機材の除染を実施。

● 片山高田線の道路改良（1 億 533 万円）**継**

多くの学生が通学路として利用する片山高田線について、道路の幅や歩道の整備により安全安心を確保する。令和元年度は国庫補助金を活用し、用地取得と道路改良工事を実施した。令和3年度末に一部（葉多町公民館から下大部町の約680m）完成予定。

● コミュニティバスの運行（9,691 万円）**継**

ノンステップバス7台、ワゴンタイプ1台、デマンドバス1台を配備し、匠台ルートを含む全11ルートを運行。交通弱者の移動手段を確保し、公共交通機関やシビックゾーンへのアクセス向上を図る。



● 安全安心パトロールの展開（5,299 万円）**継**

専用車両8台、専任のパトロール隊員15名により市内の巡回を実施。市内の巡回パトロールや登下校の見守り活動などにより、安全安心な地域社会の実現に貢献。

重点項目 4. 新たな拠点整備と都市基盤の充実

- 新庁舎の整備（47 億 4,322 万円）

小野市の新たなランドマークとなる新庁舎が令和 2 年 5 月に開庁。窓口の集約やバリアフリー化など「市民ファースト」の設計になっており、自然エネルギーの活用等により環境にも配慮。また、免震構造やライフラインのバックアップを備え、災害時にも庁舎機能が維持できる。

- 白雲谷温泉ゆびかの大規模リニューアル（2 億 5,878 万円）

開業から 15 年が経過した施設を全面的に改修し、新たな魅力を付加して更なる賑わいを創出。周囲の景色と湯船が一体化して見える「インフィニティバス」や展望サウナなどを新たに導入した。



- ひょうご小野産業団地の整備（2 億 7,473 万円）

兵庫県と共同で産業団地を整備。令和元年度はエリア内の幹線道路「新都市南北線」や上下水道などのインフラ整備をすすめると同時に、一部分譲を開始。

- 第 42 回小野まつりの助成（5,700 万円）

兵庫県最大級の打上花火や全国から踊り子の集まる「おの恋おどり」により、小野市の魅力を広く発信。第 42 回は有料観覧席の増設やメインステージの拡大、パレードの照明追加など設備を充実させ、より華やかなイベントとなった。

- 第 6 回小野ハーフマラソンの助成（700 万円）

「冬のおの恋」として定着した小野ハーフマラソンを継続。当日参加者は過去最多の 5,122 人となり、記録だけでなく記憶に残る「小野市流のおもてなし」を満喫できるイベントとなった。

- 小野希望の丘陸上競技場の整備（2 億 7,194 万円）

全天候型 400mトラックや人工芝サッカー場などを備えた陸上競技場が完成し、令和 2 年 4 月にオープン。平時は北播磨地域におけるスポーツの拠点、災害時には防災拠点としての機能を果たす。

